

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(移住相談員)
まつうら もえ
松浦 萌

Q 協力隊に着任して1年が経過しました。最近の仕事の様子を教えてください。

A 町のことが着任当初よりわかってきて、空き家の管理・運営や移住相談を受ける際に紹介できることが増えてきました。任せていただく業務も増えてきたように思います。2月には大阪府で開催された「移住相談会&交流会 幡多×移住×起業=∞in大阪」というイベントに参加して、先輩移住者としてゲストトークもさせていただきました。イベントに来てくれた方が後日来町してくださったりもして、少しは効果があったのかなと思います。

Q 黒潮町の暮らしはどのようなですか？

A 便利すぎず不便すぎず、ちょうどいい環境です。季節によって違った遊び方ができて良いなと思います。近所の方や協力隊の仲間たち、職場の方も積極的に子どもと関わってくれようとしてくれて、本当に良い人ばかりだなと。また、休日には子どもと遊びに行ったり、協力隊の仲間と集まって遊んだりしています。もう少し暖かくなったらサーフィンにも行きたいですね。

Q 協力隊の任期終了後について、何か考えていることはありますか？

A お店を開きたいと思っています。どんなお店にするかを探りながら、店舗を探したり、お店の計画を1年でしっかり考えて、3年目には開業に向けた準備に取り組みたいと思います。現在はパソコン上でできるWebデザインやイラスト作成なども行っていて、今後、協力隊卒業後に複業するためのなりわい作りもしていきたいです。



休日に家族で海へ

協力隊から一言!

たくさんの移住希望者と関わり、寄り添いながらサポートしていきたいです。

Kramer's Corner クレマのコーナー



今月のテーマ シンコ・デ・マヨ

日本では5月初旬といえばゴールデンウィークを楽しむ時期だが、アメリカ人はその代わりに別の独特なイベントを迎えます。それはシンコ・デ・マヨ。スペイン語で5月5日という意味で、名前の通り、その日に開催されるイベントです。もともとは1862年にフランス帝国との戦いに勝利したことを祝うメキシコの祝日だったが、今ではアメリカ全土でメキシコ文化を祝う祭りとなっています。

この日に人々は自宅でメキシコ料理を作ったり、メキシコ料理のレストランに出かけて食事をしたりして、家族や友だちと一緒に祝います。また、メキシコ系アメリカ人が多く住む州を中心に、パレードやメキシコの伝統的な歌と踊りのパフォーマンスを披露する150以上のお祝い行事が全国で行われます。これらのイベントでメキシコの伝統的な服装、特に象徴的なソブレロ帽子をかぶった人をよく見かけます。学校もこの日をメキシコ文化について生徒に教える機会に利用します。

アメリカで初めてシンコ・デ・マヨを祝ったのは、カリフォルニア州の小さな村に住んでいたメキシコ人鉱山労働者だと言われていますが、1980年代にメキシコの商品を売り込もうとする企業の努力により、シンコ・デ・マヨはアメリカ全土に広まりました。日本の製菓会社がチョコレートを売るためにパレンティンデーを宣伝したように、アメリカのお酒会社もメキシコのビールやテキーラを売るためにシンコ・デ・マヨを広めました。その宣伝効果は絶大で、多くの年、国内で最もビールが売られる日になっています。今年僕の家族もテキサスでメキシコのビールを飲みながらシンコ・デ・マヨを楽しみましょう。

今月の使える! 英語

Cheers! 乾杯!



英語の「乾杯!」は「Cheers!」だけど、シンコ・デ・マヨの日にはスペイン語で言いましょう。「Salud(サルルー)!」

